

三ツ城小学校 4年生への手紙

(出前講座「地球温暖化と私たちの暮らし」報告に代えて)

広島大学マスタース会員 安藤忠男

4年生のみなさん、こんにちは。みな元気ですか？ 1月22日の三ツ城小学校ふれあいDAYでは、皆に地球環境のことなどをお話する機会をもつことができ、大変うれしく思いました。みなさんからたくさんの質問や意見があり、また、私の話が終わった後に、お礼の言葉と皆さんの素晴らしい合唱をきかせて下さり、感動いたしました。どうもありがとうございました。

このたびは140通もお手紙をいただき、どうもありがとうございました。どの手紙も自分の感想などをしっかりした文字できちんと書いてあり、感心しました。地球環境の問題はふくざつで、科学者にもまだわからないことが多いのですが、小学生がこのむずかしい地球環境の問題をわかろうと努力し、自分たちで調べたことを壁新聞などに発表していることにはびっくりしましたし、大変すばらしいと思えました。

今回いただいたお手紙にもたくさんの質問がありました。どれも大切な質問なので、全ての質問について私の考えを書きました。できるだけわかりやすく書こうと努力しましたが、それでもむずかしいところが多いと思います。そのようなときは、どうぞ先生方に質問してください。きっと、もっとわかりやすく説明して下さると思います。



私たちの住む地球では、人類の文明の進歩と

ともに、人間の数がどんどん増えはじめました。それと同時に、人間が使うエネルギーや人間が出すごみの量が増え、森が少なくなり、海がよごれ、空気や水もきたなくなってきたてしまいました。このような変化が地球全体ではじまり、気候さえ変わり始めてきたのです。

広い宇宙の中で地球は、私たち人間が暮らすことができるたった一つの星です。人間だけではなくたくさんの生き物が生きることができるただ一つの星です。その地球が人間によって大きく変わろうとしています。このようなことは46億年もの長い地球の歴史の中で初めてのことなのです。もし私たち人間が、どの生き物も住めないような地球にしてしまったら、たいへんです。

ここは世界中の人たちといっしょになって、もとの美しく、多くの生き物が仲良く住める地球をとりもどさなくてはなりません。地球をよごしてしまった私たちには、そのように努力する責任があると私は思っています。どうぞ皆さんも、体と頭と心をいっしょけんめいきたえて、地球を救おうとしている世界中の仲間に加わって下さい。



地球がもとどおりになるには、100年以上の長い時間がかかると多くの科学者が考えていま

す。でも、世界中の人たちがいっしょになって努力すれば、オゾン層の場合のようにもっと早くに地球をすくうことができるかもしれません。うまく行けば、今よりも何倍も美しく、平和な地球にすることだって夢ではないと思います。皆さんが100歳になる2100年ころまでにそのような地球が実現していると良いですね。みなさんのがんばりに期待しています。

2011年2月27日